

序論

日本はいろいろな文化の特徴がある。例えば、美術や祭りは、とても豊かな文化である。

日本では、18世紀から芸者という仕事が始まった。芸者は踊ったり、歌ったりして、お茶屋のお客を慰める仕事で、それはみんなに知られている。

芸者は、男性を慰めたり、世話をしたりする人だと考えている人が多い。実は芸者というのは芸術家で、男性の前で踊ったり、歌ったりして、男性を慰める人である。

芸者

料亭や旅館などの酒席で、舞い踊る。

音曲などの芸をしたり酌をして客を楽しませるのを職業とする女性。

(類語例辞典：503-24)

この論文で、筆者は昭和時代の芸者についてマルクシス女性解放論の観点を通じて、分析する。マルクシス女性解放論の理論は、芸者思考形式と関連する。

女性解放論とは、政治、経済、社会の面において、男性と女性が平等の権利を持っているという理論である。他の意味で、女性の権利と生活をよくするために闘う組織的な運動である。

また、マルクシス女性解放論によると、男性が女性の生活すべてを搾り取る根本の原因は、資本主義であり、男性と女性との社会的な関係（お金、仕事、ジェンダーの関係）が悪化しているということである。

本論

芸者は、お茶屋で伝統的な日本の芸術をお客に見せる女性の芸能人である。芸者になりたい女の子は、踊ったり、歌ったり、演奏したりすることのようないろいろな伝統的な芸術を学ぶ。芸者見習いは、「舞子」と呼ばれていると遊ぶ。芸者は着物を着ていて、そして、白く化粧している。

昭和時代の芸者の料金は、非常に高く、料金は一人当たり50,000円からであった。

ところで、マルクシスの女性解放論の概念によると、社会の階級ができると、資本主義になるということである。また、女性自身は、家族と友達から尊敬を受けるということである。

昭和（1926年から1989年）に、西洋人の文化が入ってきた。芸者は近代化の生活にならなかった。そして、近代化が進んでも、国民は芸者を芸術として認めなかった。芸者が近代化したら、女給と名付けられたカフェのウェイトレスのようになる。

この昭和時代、国民の中で、芸者の仕事の反対する人が多かった。実際に芸者は、生活をするために、その仕事を選んだのである。

売春はもちろん「最も古い職業」と称されます、そして、芸者の履歴は数世紀、後ろに伸びます。しかし、多くの人々はその芸者がちょうど売春婦に対する日本語であると仮定する間、あなたが彼らの歴史を考慮するときそれさえ紛らわしいけれども、いくぶんよりロマンチックな語「上

布」は多分ニュアンスでよしまじかでしょう。語芸者自体は、文学通り「芸術の人」を意味します。

(www.japan-zone.com)

伝統に従って、芸者は結婚を禁じられ、独身で暮らさなければならぬ。そして、結婚したら、芸者としての仕事を辞めなければならない。また、結婚しなくてもだんなの子供が産める。

芸者の社会では、「みずあげ」という儀式がある。「みずあげ」は処女式という意味である。この儀式で、芸者の処女を競り売りされて、一番高く買える男性に芸者の処女を取られた。

若い女のは20世紀中頃まで彼らの家族によって芸者生命売られて、彼らの処女性格が最も高い入札者に売られたそれによって「みずあげ」の儀式に、しばしばなりやすかったです。

(www.japan-zone.com)

そして、芸者の処女を買った男性は「だんな」と言われる。だんなは芸者の生活の面倒を見る。

確立した芸者がだんなまたは後援者を連れて行くことは一般的に、裕福な男性（時々結婚している）でした。そして、その人には芸者の伝統的なトレーニングと他のかなりの経費に関連した非常に大きな出費を支持する手段がありました。

(www.japan-zone.com)

第二次世界大戦前には、芸者がだんなとして多くの大将を選んだ。大将は、他のだんなより給料があまり多くなかったが、戦争が起こった時、大将には職務と権力があつたので、芸者は大将を多く選んだのである。

また、第二次世界大戦の前には、政府は、花街での置き屋の営業許可を消した。しかしながら、戦後には、芸者が置き屋に戻ってきたのである。

そのような芸術は第二次世界大戦の後、根絶されました、そして、芸者職業は安定した低下の状態になりました。今日、芸者が社会の上の外で個人的な党で楽しませるために雇われるならば、彼女は最も慣れたベテランでありそうです。

www.japan-zone.com

マルクシス女性解放論によると、筆者は、マルクシスが「みずあげ」の儀式に対して賛成すると思う。芸者は「みずあげ」の儀式をしなければならない。他の選択の余地がなかったからである。そして、「みずあげ」の儀式があつたので、芸者は金銭上の利益が得られて、生活をする事ができて、舞子の時の借金を返すことができた。

この時代で芸者になっている女性は、悪い人ではない。芸者になっている女性は、農民になっている女性より給料が多かった。

結論

マルクシスの女性解放論によると、社会の階級ができると、資本主義になるということである。各々の階級は、それぞれの目標があった。権力の階級は、つまり、置き屋の所有者とだんなが間接的に、芸者のお金を搾り取った。

筆者は、資本主義の関係において、芸者に対するお金の搾取がなかったと思う。女性が芸者になったのは、経済的な理由があったからである。また、芸者は、「女優」という仕事もできて、多くの収入を得ることができた。

マルクシスの女性解放論の概念は、女性自身は、家族と友達から尊敬を受けるということである。芸者も女性で、人々から尊敬される必要がある。そして、親切なだんなから尊敬される。

また、マルクシスの女性解放論の概念から考えると、芸者は生活するために能力を持たなければならないと思う。

芸者と遊ぶ料金は、非常に高く、芸者にとってお金がたくさんもらえる仕事である。そして、第二次世界大戦の後、芸者は高級な仕事になった。